

**子どもの最善の利益に向け、学校給食の  
無償化、自校方式の堅持を**

一宮市12月議会 12/9  
 一般質問 渡辺さとし



**質問** 尾西・木曽川地区の給食提供方式についてどのように検討されているのか。2023年12月に開催された学校給食審議会では、自校方式の調理場を建設するためには「最低でも従来の2倍程度の床面積が必要であり、その面積を確保するには土地を購入する必要がある。しかし、それは困難」との回答を事務局が行っているが、校舎を建て替える際に、学校敷地内で調理場の面積は賄うことはできなかったのか

**答弁** 少子化になると言っても児童生徒数が急激に減るわけではないので、教室数が減ることを想定せず、「現在の状況で調理場を建設するには」という視点で説明させていただきました。

**質問** 尾西・木曽川地区の給食提供方式という重要な内容を議会にも報告されることがなく、1回の審議会と地霊教育委員会で決めたのはなぜか。

**答弁** 学校給食審議会には、有識者、市議会議員、卸売市場関係者、学校長、保護者の代表者、食育・給食主任の先生や自校方式の学校の栄養教諭等も委員として参加していただいております。それぞれの立場から様々な視点で適切なご意見を頂戴し、十分に検討していただいたと認識しております。

**質問** 学校給食の当事者である児童制度、保護者、教員等の意見を聞くことは行わないのか。

**答弁** 十分に検討いただいたおと認識しており、その考えはありません。

市で行った昨年12月の給食審議会では、自校方式は費用が掛かることや現在の給食調理場に比べ2倍の面積が必要という説明が事務局からされており、それを実現するには近隣の用地買収まで必要との説明がされています。しかし、これから小中学校を整備するシン学校プロジェクトにおいての話であり、給食調理場の床面積を2倍確保する前提で設計をすれば可能な話ではないでしょうか。自校方式の維持は困難という結果を導くための当局説明であったと感じざるを得ません。

**質問** シン学校プロジェクトは、進捗状況が議会に報告がされず、分かりにくいと感じるが、このことについてはどのように考えているのか。

**答弁** シン学校プロジェクトの第1期対象校は、シン学校プロジェクト候補校選定委員会にて選定した提案があった学校一覧から、学校の状況などの教育的な視点、地域の現状等の行政の視点を踏まえて、市長と教育委員会とで構成する総合教育会議において決定しております。

昨年11月26日にキックオフミーティング、同12月27日に学校給食審議会にて尾西・木曽川地区を共同調理場方式にすることを決定、今年2月1日～シン学校プロジェクト基本方針(案)のパブリックコメント、2月13日の定例教育委員会で尾西・木曽川地区を共同調理場方式と決定しています。

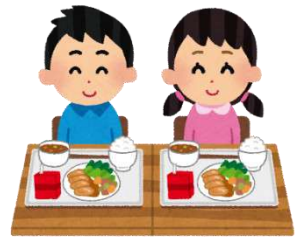
市民の意見や地域の声を反映させる余地もないスケジュールです。審議会でも費用面で優ることが協調され、自校方式維持には用地買収等しなければ実現不可能化のような説明がされています。

アンケートで、子どもたちが質の面で優れていることを示しています。各所の努力で維持されている自校給食、良いものをこれからも子どもたちに提供し、共同調理場方式の質も良くする、子どもにより良い給食の提供と食育を進めていくのが市の役割です。これだけ重大な決定が当事者である子ども・保護者などの意見が十分に聞かれないまま行われたことも大きな問題だと考えます。改めて尾西・木曽川地区の方々に伝え意思表示する機会とそれらを踏まえた尾西・木曽川地区の給食提供方法の再考が必要だと考えます。

**質問** 給食費の無償化は様々な面で意義があるものと考えます。また、教員の負担軽減にも寄与するものと考えます。給食費の無償化についての考えは？

**答弁** 一宮市では、以前から給食食材の購入費用につきましては、「学校給食法第11条に基づき」保護者の皆様にご負担いただきますようお願いしております。

小中学校の給食費全額無償化を実施するには17億円必要で、喫緊の課題である学校の屋内運動場や特別教室の空調設備整備や18歳までの通院医療費医療費無料化など全部実現は難しいことも理解します。他の自治体でも今年度から実現しており、様々な方法で全部無償化ではなくても検討をするべきです。



ご案内

議会閉会日 12月23日に議場で演奏会が行われます！  
 木曽川高校ブラスバンド部による議場演奏会を開催します。

日時	12月23日(月曜日) 午前9時30分(15分程度)
定員	60人(当日抽選)、抽選にもれても14階会議室で視聴可能
受付	午前8時30分から午前8時45分、本庁舎14階大会議室

## 投票しやすい選挙を

**質問** 今回の衆議院議員選挙での小選挙区での投票率はどうだったか。

**答弁** 衆議院議員総選挙の小選挙区の投票率は、一宮市が50.62%、愛知県が54.50%、全国が53.85%でした。

**質問** 5か所の期日前(きじつまえ)投票所が設けられていますが、期日前(きじつまえ)投票をされた方はどのくらいいらっしゃったのか。

**答弁** 期日前(きじつまえ)投票をされた方は、市役所本庁舎が9,955人、尾西生涯学習センターが12,557人、木曾川体育館が12,411人、iビルが9,361人、西成公民館が6,465人で、合計50,749人でした。

一宮市内の投票総数が15万8,238人となっていますので、50,749人、32.07%の人が期日前投票で投票されたことになるかと思えます。さらに足を運びやすい期日前投票所が増えれば投票率向上にもつながると考えます。

**質問** 期日前(きじつまえ)投票所を商業施設に開設する事例があります。当市でも検討されたことと思いますが、実施に至っていません。何か理由があるのか教えてください。

**答弁** 現在、商業施設に期日前(きじつまえ)投票所を開設していない理由としては、適切な投票環境を確保することが難しいことによります。

期日前(きじつまえ)投票所を開設するには、一定規模の広さがあり、外から見られることがないよう、投票の秘密が守られる場所が必要です。また、選挙人が投票したかどうかの情報を他の会場でも即時に共有する必要があるためオンラインのシステムを使用しており、市のセキュリティポリシー上、有線による住民情報系のネットワーク回線を引く必要があります。

今回の衆議院選挙にあたり、イオンモール木曾川とテラスウォーク一宮にご相談しましたが、これらの要件を満たせる場所はなく、また、毎回場所を提供できるとは限らないことから、期日前(きじつまえ)投票所の設置は難しいとのことのお答えをいただいております。

商業施設での期日前投票は難しいとのことですが、これからも期日前投票所開設の努力をしていただくとともに、主権者教育などに力を入れることをお願いしました。郵便投票なども該当する方へさらなる周知をお願いし、投票しやすい選挙の実現で投票率向上につなげていただきたいと思います。

## 公共交通充実で暮らしやすい一宮を

**質問** 2024年3月に策定した第3次一宮市公共交通計画事業の内容や進捗状況を質問します。i-バスの見直しに関して、利用の少ない木曾川・北方コースの見直しを行い、木曾川町・北方町の公共交通の利便性を高めるよのことだが、現在の状況は？

**答弁** 2023年に行った、第3次公共交通計画策定に関する住民懇談会で頂いたご意見を踏まえ、運行事業者である名鉄バスと協議して、見直しに向けた案を作成し、現在、地域の方にご意見を伺いながら、検討している状況です。

**質問** i-バスミニに関する事業で、日常生活に必要となる商業施設や診療所等、最寄りの鉄道駅やバス停以外の目的地を追加するなど、高齢者等の外出を支援するよう見直すと掲げていますが、これについては、いかがでしょうか。

**答弁** バス停が近くにないなどバス利用がしづらい地域における地域内の移動手段としたi-バスミニの位置づけを前提にしつつ、交通結節点となる商業施設や診療所への接続に向けて、検討している状況です。

**質問** すでに実施済みで、現在行われている施策の内容を教えてください。

**答弁** MaaS(マース)アプリ等の情報技術を活用した、移動に関する利便性の向上を図る事業については、11月から一宮市版MaaS(マース)サイトである「イッテミーヤ」としてスタートをさせました。バスのデジタルチケットの購入や、i-バスミニやタクシーの配車依頼、そのほか、移動の最適ルートの検索などをすることができ、移動に関する機能を集約した「イッテミーヤ」を使うことで、お出かけが便利になるので、より多くの方が公共交通をご利用していただけることを期待しています。

**質問** 公共交通施策は、市の様々な施策における市民の移動のインフラ・ライフラインであり、福祉の視点が重要だと考えていますが、市としての考えを教えてください。

**答弁** 公共交通が充実することは、環境負荷の低減の達成につながるだけでなく、日常生活に必要不可欠な買い物や通院等の移動に加え、さまざまな活動のためのお出かけを含む外出機会の増加につながり、これによって健康増進にもつながります。学生、若者、高齢者、来訪者等、クルマがなくても誰もが快適に暮らすまちを目指してまいります。

市民の方からの意見を紹介します。「電動自転車や電動車いすで歩道を通行していると、傾斜や段がきつく通行しにくい道が多数あり、スーパーに行くのにも難儀している。現場に来て自転車や車いすでも通行が可能かという視点で道の整備をしてほしい。」ということでした。市の中心部は整っていますが、郊外では傾斜や段差がある歩道が多数見られます。歩道の整備も市民の大事な関心事ですので、交通網の整備とともに留意いただきたいと思います。